

令和7年度 札幌市立宮の森中学校「学ぶ力」育成プログラム ～ 世界は自分たちの手で変えることができる ～

学校番号：31007

実態	「学ぶ力」	
	これまでの 成果	課 題
	◇札幌市共通指標の『「学ぶ力」育成に向けた5つのポイント』に関連するほとんどの項目において、札幌市全体の集計よりも肯定的な回答が多い。特に「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある」という項目は安定して高く、継続的なユニット学習や異学年交流の積み重ねと、道徳における対話型の学習や、総合的な学習の時間における協働学習の成果が見て取れる。 ◇年度当初より課題としていた「自分の意見を進んで発言しようとしている」の項目は昨年度より13.7%増加し（札幌市平均値より14.4%高い）、課題を焦点化し、改善に向けて組織として対応した成果が現れた。 ◇単元ごとの学習の記録や自己評価の定着をはかることができた。	◇各教科の学習と実生活や実社会とのつながりの薄さがあり（受験偏重）、単元ごとに身につけたい力を、未来に生きて働くために必要となる実用的なものとして明確に示すことが必要である。（「何を学ぶか」＜「何ができるようになるか」） ◇自分の興味・関心、好奇心に素直に向き合ったり、教科書の世界から抜け出し、社会や世界の現状に目を向け、自ら疑問をもち自分で課題を設定する力の育成が必要である。 ◇学習の自己評価に対する教科担任によるカウンセリングの充実をはかることで、子どもが自分の伸びに対して主観的にも客観的にも認識を深め、新たな目標に向かって自らの学習をコントロールする力の育成につなげる。 ◇学びのユニバーサルデザイン化と個に応じた学びの支援の推進。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題		
◇札幌市共通指標の「相互承認」に関連する全ての項目において、札幌市全体の集計よりも肯定的な回答が高い。令和6年度3年生の経年比較では、「自分には良いところがある」「自分が必要とされている」の項目が1年次よりそれぞれ20%以上増加した。継続して実践してきたユニット学習や異学年交流、小中交流授業に加え、教科実践発表の日など日常の学習の成果を表現し、学校全体で称え合う場や、コーチングセミナーによる認め合いのスキル向上、単元テストの再挑戦の機会を設定したことなどが自己肯定感の高まりに寄与していると考えられる。引き続き、教職員や子どもたちが共にアイディアを練りながら、自己肯定感を高めるため「つながり」「有能感（できる感）」「自発性（自分から感）」を満たせるような場の創出に努めていく。		

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

学校生活・地域社会・世界に目を向け、今を生きる当事者としてその課題に気づく力、自らを社会とつなげ価値づける力

取組	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
	◇総合的な学習の時間を中核とし、社会とのつながりや、自らの社会的価値の発見を目的とした、教科横断的な学びの体系化をはかる。 ◇各教科の学習では、単元のテーマやねらいを実生活や実社会とのつながりが実感できるものとして示していく。 ◇単元計画を見える化し、生徒自らが単元ごとに個人の課題や目標を設定したり、単元内で学び方を自己決定する時間を設けることで、生徒が学習を自己調整する力の育成をはかる。 	◇4月～5月を「人間尊重の教育」学校親の共有期間とし、6月の旅行的行事への準備活動を通じた人間関係づくりなどを「プラスのまほう」をキーワードに生徒主体で進めていく。 ◇生徒会による学校改善プロジェクト（目安箱）の継続実施。 ◇文化祭におけるPTA バザー昼食の収益の運用の仕方を、「社会貢献」をテーマに生徒会がPTA 役員と共同で考える。 ◇学校運営協議会における生徒会役員生徒の参加と、そこであがった声を学校運営へ反映させていく。

〈本プログラムの実行に向けて〉

